

新しい絵本の世界を味わえる

おすすめの 絵本

監修：広松由希子

まずは自分のために

大人も夢中になる絵本

『ローラとつくる あなたのせかい』

著：ローラ・カーリン
訳：ひろまつ ゆきこ
出版社：BL出版

新しい自分の世界をつくるとしたら、どんな風につくる？ いろんな画材やコラージュでつくられた画面は、おもちゃ箱のよう。見るものの心を自由に解放し、創造し、考えることの自由とよこびを伝えてくれる。



『金曜日の砂糖ちゃん』

著：酒井 駒子
出版社：偕成社

三つの詩のようなお話が収録された手のひらサイズの絵本。繊細な装丁で、そっとページをめくりたくなる。ひっそりと柔らかな絵とつぶやきが、自分の中に眠る幼い子どもの感覚を呼び覚ましてくれるような作品。



こんな絵本もあり？

革新的な変わり種絵本

『ヒキガエルがいく』

著：バク ジョンチェ、申 明浩
訳：広松 由希子
出版社：岩波書店

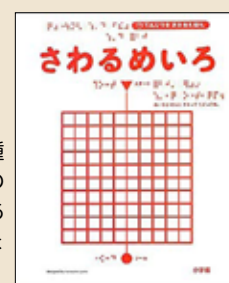
ギョッとするほどリアルなカエルはインパクト大。文章は「トン」「トトン」と太鼓の音だけ。でも美しい画面のデザインとめくるリズムに引き込まれ、池を目指すカエルたちの行進に釘付けになる。



『さわるめいろ』

著・デザイン：村山 純子
協力：点字つき絵本の出版と普及を考える会
協力：岩田 美津子
出版社：小学館

点字の線を指でなぞって遊ぶ迷路が11種類入った本。青海波や麻の葉など日本の伝統文様が美しく目を惑わす。障害のある人もない人も、大人も子どももいっしょに楽しめるバリアフリー絵本。



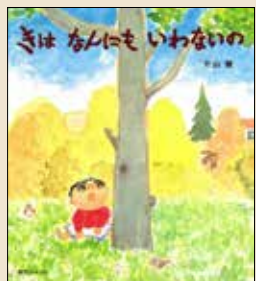
幼い子にもお父さんにも

奥が深い幼児絵本

『きはなんにもいわないの』

著：片山 健
出版社：復利ドットコム

お父さんと公園へ出かけた男の子。でも「木」になりきった父親は、子どもが呼んでも手を貸さない。何でもすぐ助けるのでなく、一歩引いて見守る親と子の関係。温かい遊び心に満ちた絵本。お父さんにもぜひ。



『はぐ』

著：佐々木 マキ
出版社：福音館書店

静かな浜辺、下手と上手から現れてはハグし合うふたり。ラクダとシマウマ、ワニとペンギンなど奇妙なペアはナンセンスなようで、国境も種も超えて地球の誰もが抱き合える、究極の平和に包まれる。



読書の秋は 絵本の世界へ。

食欲、芸術、スポーツ、
何をするにも快適な「秋」。
今年の秋は絵本に触れて「読書の秋」を
楽しんでみませんか？
親子で楽しめる絵本の世界の魅力を
絵本作家であり、翻訳や評論も手掛ける
広松由希子さんに伺いました。

絵本との出会い

本屋さんで必ず見かける絵本コーナー。子どもはもちろんですが、大人が読んでも楽しめる様々な絵本が数多く出版されています。「読書の秋」に絵本に触れて、気づかなかった感動や優しい気持ちに包まれてみませんか。

絵本の楽しみ方やお気に入りの一冊に出会う方法を、絵本作家の広松さんから伺いました。

絵本の創作・評論・外国の絵本の翻訳など国際的に活動されている広松さん。絵本に興味を持つようになったきっかけは、幼少期に出会った一冊の本だそうです。「二歳のときに親から読んでもらった『うきちゃんとうみ』（福音館書店）が私と絵本の最初の出会いです。この絵本は今も私の大切な一冊です。一歳の頃の記憶はありませんが、その本を小学生のときに何気なく読み返したとき、記憶がないはずの幼少の頃の喜びが体に蘇ってくるようでした。その後、大学時代に『かしこいビル』（ペンギン社）という絵本に出会いました。絵本をめくっているときに、絵と文の一体感、ページをめくる時間の流れや立ち上がる空間、その自由度など絵本特有の魅力に改めて気付いたのです。絵本というメディアの面白さや絵本にしかできないことがあると感じて、将来は絵本に関わる仕事をしたいと考えてようになりました」

絵本との出会いが財産となり、出版社や美術館勤務を経て、現在はフリーランスで絵本に携わる仕事をされています。

言葉を超えて眠っている感覚を 呼び覚ます絵本の世界

文字が読めない赤ちゃんでも、外国語が読めない人でも、絵本は言葉を超えて物語を伝えてくれます。小

難しい文章はなく、絵が物語を伝えてくれるので読む人の頭の中に眠っている感覚を呼び覚まし、発想を刺激してくれます。

「絵本の素晴らしいところはまず、気軽に読めること。そして読むたびに驚きや発見があることです。自分では思いつかない新しい表現に触れたときに自分の世界が広がっていく感覚を、多くの人に共有してもらいたいと思っています。例えば、海外の作品には、日本にはない発想やデザイン、新鮮な驚きを与えてくれるものもたくさんあります。翻訳されていない原書だと、物語がわからないという不安もあると思いますが、絵本は『絵が語る本』なので絵を眺めているだけで物語が汲み取れます」

どんな絵本にも失敗はない

『絵本を読んだことがない』という人はいないと思いますが、読んだことがある絵本でも大人になるにつれて記憶の隅に追いやられてしまい、自分の子どもに与える絵本を悩む方がいます。

「子どもには一番良いものを与えたい、失敗したくないという愛情から、絵本選びに慎重になってしまいうです。そんな方たちへおすすめの絵本や昔から親しまれている絵本を紹介すると『なつかしい』『読んだことがある』などのリアクションが返ってくることもあります。また、多くの子どもたちに愛され誰もが知っている大ベストセラーでも興味を示さない子がいるのは当たり前で、気にすることはありません」と広松さんはいます。絵本選びはあまり慎重になりすぎず、子どもと一緒に楽しむことが肝心。まずは自分の好きな絵本をお子さんと一緒に読んでみましょう。お父さん、お母さんが子どもの頃読んでいた絵本を「これ好きだったんだ」という気持ちと一緒に読み聞かせるだけでも、絵本に興味を持つきっかけになります。